

丸ごと29ページ
カラー&モノクロ

大谷翔平を歩く

水沢・花巻・平泉 小学校、ラーメン屋から 鎌ヶ谷・横浜・米国 神社まで全足跡を巡る



大増量DVD付き
グラビア&
袋とじ

菊地
姫奈



雪平
莉左



堀江
しのぶ



沢口
愛華



インリン
「本当に最後の
写真集」を先出し



週刊現代

巨弾スクープ 年金審議会元委員 決死の告発

日本人の「マイナンバーと年収」はこうして中国に流出した

ちやんと 死ねるかな

合併号
スペシャル

死ぬときって、どれだけ苦しいんだろう／死の間際に、人は何を考えるんだろう／残された家族は、私をどう見ているんだろう／明日死ぬなら、誰に何を残せばいいんだろう／最後の一日が決まっているなら、どう過ごせばいいんだろう／迷惑をかけない死に方ってなんだろう

対談
山中伸弥×
谷川浩司
「脳の老化」は
抑えられるのか

特別価格
620円
1・8
Weekly Gendai
2023 July

7
日経は「4万8000円へ」と
書いたけれど

株価急上昇を見抜いていた プロたちがいま頭のなかで 考えていること

大特集
異常事態か、必然か。次に打つ手は何か

激論
「少子化対策」はいらない？

広末涼子の
ラブレターは
なぜ人の心を打つ



大増量袋とじ付きグラビア
67ページSSP合併号



大谷翔平を旅し、
「中村天風」に学ぶ
スベシヤルDVD

「ほったらかし相続」は本当に正しいのか

最新情報 妻に全額贈与？ 田舎の空き家はそのまま？

ヤバい新橋
サラリーマンの聖地で
何が起きている

ルポ

株価急

上昇を

プロたちが

考えていること

日経は
「4万8000円へ」
と書いたけれど

見抜いていた

いま頭のなかで

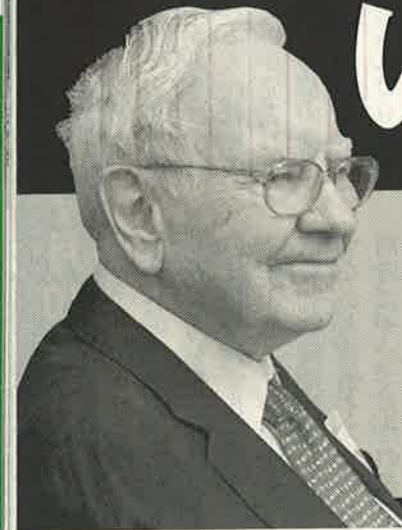
I これは異常事態なのか
必然なのか
日経平均株価
「この3カ月」
「今後3カ月」

II ドル建てで見たら
まったく違う
「実は高値
じゃない」と考える
人たちの視点

III はっきり
言ひましょう
好調でもこの株は
買っては
いけない

IV いま手を出すなら?
こっそり教えてもらった
この3カ月で儲けた人が
「私がこれから
買う株」の実名

五大商社の買い増しを表明したバフェット氏



「未知の相場」と向き合う

I これは異常事態なのか
必然なのか
日経平均株価
「この3カ月」
「今後3カ月」

6月15日付の日経新聞
朝刊を注意深く読んでい
た人は、この記述に驚い
たかもしれない。

「PBRが欧米並みの2
倍近くになれば日経平均
は4万2000〜4万8
000円になる。改革の
機運を生かせるか、今後
1〜2年が勝負になる」
発言の主は、JPモル
ガン証券チーフ株式スト
ラテジストの西原里江氏
だ。野村アセットマネジ
メント常務の村尾祐一氏

との座談会の中で飛び出
した。二人は年末の日経
平均株価は現状よりも高
い3万6000円になる
という予想で一致した。

4月上旬から日経平均
株価がぐんぐん上昇して
いる。東証（東京証券取
引所）によると、6月の
第2週まで12週連続で外
国人投資家が日本株を買
い越したという。

なぜこれまで世界から
さほど注目されてこなか
った日本の株式市場に巨

額の資金が流れ込むよう
になったのか。

ファイブスター投信投
資顧問の大木将充氏は、
この株価急上昇を見抜い
ていた。年初の「日経ヴ
ェリタス」において、日
経平均株価3万5000
円と予想していたのだ。
大木氏が振り返る。

「昨年末から年初にかけ
て、FRB（米連邦準備
制度理事会）は利上げ姿
勢を鮮明にしている。株
を買うというのは投資家
のセオリーとしてありえ
ないことでした。当然、
日本株も人気はありませ
んでした。しかし、日本
経済のファンダメンタル
ズ（基礎的条件）を見れ
ばまったく悪くない。I
MF（国際通貨基金）が
発表していた23年の実質
GDP成長率の見通し
で、日本は1・6%と、
G7（主要7カ国）の間
でトップだったので。
米国は1・0%、英国は
0・3%でした。これは
実に珍しい話です。

また、米国や中国のす
べての企業業績を集計し
て、日本のそれと比べれ
ば、今年は日本企業の増
益率のほうが高いことも
明らかになっていった。つ
まり、日本が投資家を選
ばれる素地は、年初から
すでにあったわけです」
外国人投資家が日本市
場に注目するきっかけと
なったのが、3月下旬に
東証が上場企業に対して
行った異例の低PBR（株
価純資産倍率）改善要請
だった。PBRとはその
企業の時価総額を純資産
で割ったもの。これが1
倍未満だと、「事業を畳
んで純資産を株主に分配
したほうが合理的だ」と
市場に評価されているこ
とを意味する。

東証プライム市場に上
場する企業のうちPBR
1倍割れは実に約半数に
上る。東証はこうした企
業の尻を叩いた格好だ。
「PBR1倍割れから脱
するには、収益力を高め
つつ、低収益の事業を見

直したり、自社株買いなどで純資産を減らしたりすることが必要です。現在、日経平均株価のPBRは1.37倍で、ダウ平均株価のPBRは6.15倍となっています。

米国の上場企業は高い成長率を維持して株価が高くなっており、自社株買いや増配を積極的に行って株主還元をしてきました。東証の改善要請で、日本企業にもそうした機運が生まれ、資本効率が向上するのではないかと海外勢が日本株買いを始めた(マーケットバンク代表の岡山憲史氏)

こうした流れを決定づけたのは、米著名投資家で「オマハの賢人」の異名を持つウォーレン・バフェット氏だった。岡山氏が続ける。

「4月に来日したバフェット氏が日本の商社株を長期保有する姿勢を改めて示したことで、日本への投資に安心感が広がりました。バフェット氏が

現状の水準なら、外国人投資家はまだまだ買いを入れてくると豊島氏は読んでいます。その根拠は米国の「クジラ」の存在だ。豊島氏が続ける。

「クジラ」が動き出す

「巨額の資産を長期運用し、マーケットで「クジラ」と称される米国の年金基金が日本株のウエイトを増やそうとしています。米国最大の公的年金基金「カリフォルニア州職員退職年金基金」(カルパース)も近いうちに日本株の購入に動くでしょう。私はかつてのボス

日本株を買ったことがわかると、その後、3ヵ月くらい株高が続きます。6月19日に五大商社株の買い増しを再び発表したの、今回も同様の動きになるとしたら、日本市場への資金流入は9月頃まで続くでしょう」

日本株急上昇を支えているのは、やはり日銀(日本銀行)が堅持する「異次元の金融緩和」である。元青山学院大学教授の榎原正幸氏は、日経平均株価が今年、バブル後最高値を更新する可能性もあると考えていた。榎原氏がこう話す。

「今回の上昇相場は、日米の金利差による円安を背景に、外国人投資家にとって日本株が大きく割安になったことから始まりました。資産インフレが進むので、21年9月につけたバブル以降の最高値3万8000円の水準を超える可能性もあると考えていました。ところが、実態は想像を超えています」

いるからです。日経平均株価が3万30000円の大台に乗せたと大騒ぎをしています。ダウ平均株価が毎日1000ドル(約1万40000円)単位で変動するのが当たり前のニューヨークの投資家からすれば、大したことはありません」

責任者(CEO)を長く務めたジェームズ・パーソン氏でしたから、その人的ネットワークからカルパースが日本株購入を検討しているという雰囲気は伝わってきています。他の公的年金基金もカルパースの運用モデルに追随することが多い。理事会で検討され、1〜2ヵ月後には投資が決定されるでしょう。8月頃に米国の長期投資マネーが入ってくれば、日本株はさらに踏み上がる。こうした状況を考えれば、日本株の上昇はまだ序盤。

した。3万8000円を超えてから、一気に3万30000円を超えるというのは想定外でした。資産インフレに加え、消費者物価指数の上昇、すなわち物価インフレが同時にやってきたのが原因です。これは日本が50年ぶりに経験すること。私たちは初めてインフレ相場を経験するのです」

では榎原氏は、この相場がどこまで進むと考えるのか。

「PBRやPER(株価収益率)といったファンダメンタルズから分析すれば、日経平均株価の高値は3万5000円前後でしょう。一方で、よほどの悪材料が発生しない限り、年内に株価が再び年初の2万6000円台に戻ることはなくなったと考えています。今後、一時的に相場が下落することはあっても、下値と

II 「実は高値じゃない」と考える人たちの視点

ドル建てで見たらまったく違う

「まるでバーゲン会場だ」「良い株がこんなに安く買えるなんて！」

夫氏は、日本株を精査している海外投資家がこう話すのを聞いている。

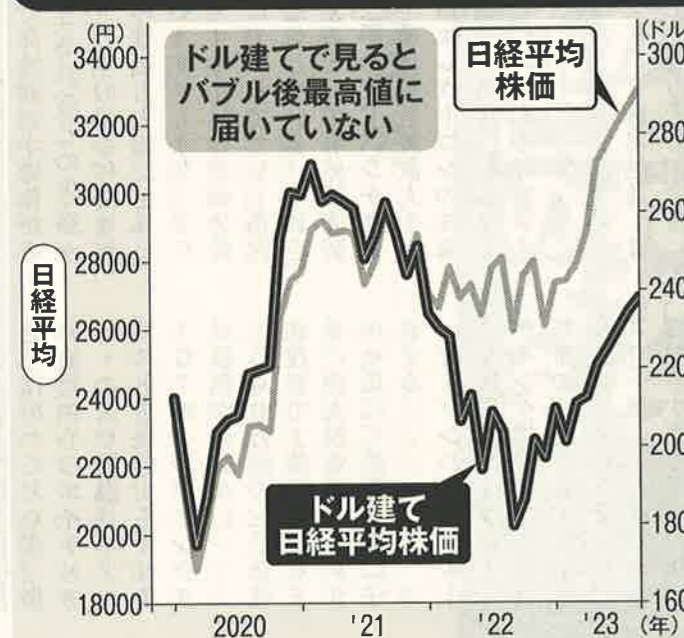
それをそのはず。連日のようにバブル後最高値

野球でいえば3回裏が終わったくらいでしょう」

また、円高を理由に海外移転していた工場が国内に戻れば、技術の流出も抑えられますし、何より国内で雇用が増えます。雇用が増えれば消費も拡大する。日本はこれから黄金期に入るとしよう」

本マイクロソフト元社長で、「2040年の未来予測」の著書もある成毛眞氏がこう見通す。

日経平均株価の推移



値上がりが期待できない業界

業界	主な銘柄・コード	注目点
半導体関連	アドバンテスト (6857)、村田製作所 (6981)、東京エレクトロン (8035)	A1需要を先取りして株高となった半導体関連株だが、天井が近そうだ。上値が切り上がった今が手仕舞いのタイミング
レジャー	アルペン (3028)、ヒマラヤ (7514)、スノーピーク (7816)	ここ2年ほどはコロナ禍におけるキャンプ特需で株高だったが、そうした需要は下火に。今後はダウトレンドとなる
旅行	エイチ・アイ・エス (9603)、KNT-CTホールディングス (9726)	円安とインフレが続くと日本人にとって海外旅行は贅沢品になってしまう。旅行需要はあるものの財布の紐は固いままだ
不動産	オープンハウスG (3288)、飯田Gホールディングス (3291)、レオパレス21 (8848)	低価格帯の不動産業は収益が悪化しており、先行きは暗い。資材や人件費の高騰に対して価格転嫁は容易ではないだろう
外食	アトム (7412)、カップ・クリエイト (7421)、マルシェ (7524)、フレンドリー (8209)	コロナ後の外食需要も一段落で業績低迷へ。原材料や光熱費、人件費の上昇を価格転嫁できないチェーンは今後も厳しい
流通・小売り	神戸物産 (3038)、イオン (8267)、ファーストリテイリング (9983)	インフレで仕入れ値が上昇すると収益を圧迫していく。消費者離れが進むので、値上げをするにも限界がありそうだ
情報通信	神田通信機 (1992)、楽天G (4755)	楽天Gはモバイル事業に苦戦し、光明が見えない。情報通信網構築が主力の神田通信機も半導体不足で業績が低迷する

※Gは「グループ」の略号。識者のコメントを元に編集部で作成した

件供給が限定的なのがネックです。株価の下落基調が続いています」
外食産業も明暗がわかれそう。コロナ明けで回復した外食需要も一段

落し、原材料価格や人件費、水道光熱費の上昇が重くのしかかる。もはや政府の支援金に頼ることもできない。個人投資家でファイナンシャルプラ

もちろん、日本経済に立ちほだかるリスク要因もある。その最大のものが、米国の景気失速だろう。アセットベストパートナーズ代表の中原圭介氏が先行きを懸念する。

「強気相場の背景にあるのは、米国の景気後退が起きない、という考えです。しかし、私はいま、07年8月以降の相場の雰囲気にとっくりだと感じています。このとき起きたのが、『パリバショック』です。フランスの大手銀行BNPパリバが傘下のファンドの解約を凍結したことにより、一時的に信用不安が広がりました。ところが、その後

も株価は上昇を続け、翌08年9月の『リーマンショック』につながった。現在も大幅な利上げが行われ、米シリコンバレー銀行が破綻したにもかかわらず、株価は強気一辺倒です。もし実際に米国で景気後退が起これば、いまの株価は絵に描いた餅になるでしょう」
これが杞憂に終わればいいが、波乱には備えておきたい。

日本株が好調だからといって、当然、すべての株が上がるわけではない。投資に当たっては、銘柄選別が最も重要だ。

III はいきり言いましたよ 好調でもこの株は買つてはいけません

インフレに苦しむあの会社

なかには「買つてはいけない」銘柄もある。前出の中原氏がこう指摘する。
「世界的に話題の生成A

Iで高性能の半導体が必要とされるとの思惑から、日本の半導体関連銘柄の株価も大幅に上昇しています。しかし、PCやスマホ向けの半導体需要は先細りですし、市況は悪化している。それを考えると、半導体検査装置大手のアドバンテストや半導体製造装置大手の東京エレクトロンの株価は高すぎるように見えます。いったん手仕舞いすることをおすすめします」
コロナの恩恵を受けた企業も、今後の見通しは厳しくなりそう。だ。

意欲は戻っておらず、海外旅行中心のエイチ・アイ・エスや近畿日本ツーリストを展開するKNT-CTホールディングスは株価が冴えない。
300万円の元手を株式投資で1億円に膨らませた個人投資家のkenmo氏は不動産業界に注目する。
「オープンハウスグループや飯田グループホールディングスといった低価格帯の戸建て住宅分譲を主力にしている会社は、コロナ禍のときはよかったです。足下の状況は明るくないと思います。今は資材や人件費などが上がっていますが、購買層への価格転嫁が容易ではなく、収益性が悪化しているからです」
前出の岡山氏も口を揃える。
「単身者向けアパート賃貸が主力のレオパレス21は、入居率の向上が見込まれますが、土地代や資材価格の上昇で新規の物

虎伝」などを展開するマルシェやうどん店「香の川製麺」を運営するフレンドリーは株主優待を廃止し、株価は下落しています。コロナワイド子会社

のアトムやカップ・クリエイトは業績が芳しくなく、株主優待が維持されるか不安です」
時には保有する株を見直すことも重要だ。

IV

いま手を出すなら この3カ月で儲けた人が 「私がこれから 買う株」の実名

2カ月で2倍になった

日経平均株価が33年ぶりの高値にあることは事実だ。だが、これから買っても間に合うのか、何を買ったらいいのかと迷っている人も多いに違いない。
そこで本誌は「株のプロ」に改めてこっそり注

目銘柄を教えてくださいました。資産1億円超えを果たし、個人投資家向け勉強会を主宰する前出のkenmo氏がこう明かす。
「半導体ではソシオネクストに注目しています。富士通とパナソニックのロジック半導体事業が続

合してできた会社で、昨年10月に上場したばかり。初値は4000円足らずでしたが、今は2万2000円台で、上場8カ月で約6倍になっています。私も5月の1万円台のときから買っています。いま時価総額が7000億円台ですが、おそらくキリのいい時価総額

これから買っても間に合う銘柄②

銘柄・コード・市場・業種	最低投資金額	注目点
ニッスイ 1332・東証P・水産・農林業	6万6300円	水産老舗で家庭用冷凍食品大手。インフレによって値上げをしやすい業績に期待できる
鹿島 1812・東証P・建設業	20万7400円	同社はTSMCをはじめラピダスの半導体工場設置事業も受注。政府の国策による利益増へ
ニッポン 2001・東証P・食料品	18万6900円	製粉業界最古参の業界2位。冷凍食品などの家庭用食品を強化しており、物価上昇で恩恵
キリンホールディングス 2503・東証P・食料品	21万7000円	ビール類で国内首位級。清涼飲料も多数展開しており、値上げしても消費者は離れにくい
メディシノバイオ 4875・東証S・医薬品	3万5000円	米国にも上場しているバイオベンチャー。9月発表の治療薬開発の結果で株価上昇に期待
ENEOSホールディングス 5020・東証P・石油・石炭製品	4万8170円	エネルギー関連株の中でも安定銘柄。最低投資金額が小さく、利回りが高いのもポイント
FIXER 5129・東証G・情報・通信業	23万1400円	米オープンAIの「チャットGPT」を使った実証実験で三重県伊賀市と連携すると発表
ABEJA 5574・東証G・情報・通信業	93万円	独自の人工知能を使い、企業のDXを支援。米グーグルや米エヌビディアが出資している
平田機工 6258・東証P・機械	86万4000円	有機ELディスプレイ製造装置に強み。来年一部アップル製品に有機ELが採用される
オイレス工業 6282・東証P・機械	20万2400円	自動車などに使われる部品メーカー。好業績が続き、増配を行うなど株主還元積極的に
トーヨーカネツ 6369・東証P・機械	33万6500円	LNGや原油などの貯蔵タンクの製造・販売など。業績がよく増配もあって上昇トレンド
ソシオネクスト 6526・東証P・電気機器	277万2000円	富士通とパナソニックのロジック半導体事業が統合した会社。上場8ヵ月で株価は約6倍
ヤマエグループホールディングス 7130・東証P・卸売	31万500円	九州が地盤の食品卸売業大手。TSMCの新工場建設で、物流を手がける同社にも追い風
九州フィナンシャルグループ 7180・東証P・銀行業	5万5310円	TSMCの熊本進出で地域経済が恩恵を受ける。地元の銀行に今後の伸びを期待できそう
丸紅 8002・東証P・卸売業	25万3150円	パフェットが買い増し株高へ。食料比率が高い同社は、農産物の高騰のため上がりやすい
三菱HCキャピタル 8593・東証P・その他金融業	8万2800円	大手リース会社。リース業界は収益力が高いのが特徴。20年以上連続して増配している
東京海上ホールディングス 8766・東証P・保険業	33万900円	金利上昇が収益に繋がりやすい保険業界は狙い目。同社は業績面も良く増配の期待も高い
AZ-COM丸和ホールディングス 9090・東証P・陸運業	19万8200円	顧客企業の物流業務を一括して受託。アマゾンや良品計画、ニトリなど小売り大手が顧客
日本電信電話(NTT) 9432・東証P・情報・通信業	41万1500円	日本を代表する通信会社。日経平均の上昇に比べて値上がりは不十分。買いの余地あり
ソフトバンクグループ 9984・東証P・情報・通信業	69万3700円	投資事業が中核。孫正義氏の目利きによる生成AI企業への投資に注目が集まっている

※最低投資金額は6月21日現在

今年4月から日経平均株価が2割以上も上昇してきたのに、NTT株は数%しか上がっていない。同社は日本を代表する通信会社であり、国産

均株価が2割以上も上昇してきたのに、NTT株は数%しか上がっていない。同社は日本を代表する通信会社であり、国産

の生成AI開発も手がける有望銘柄にもかかわらず、NTTが相場のど真ん中に躍り出ると見えています

多少の乱高下があっても大きな価値を狙いたい向きは、新興のハイテク企業に注目だ。「独自のAIプラットフォーム

オームを使って企業のデジタルトランスフォーメーション(DX)を支援するABEJAは、SOPPOホールディングスの介護事業と提携しており、将来性があります。米グーグルから出資を受け、米半導体大手エヌビディアと協業している点も期待が大きい。

基幹システムのクラウド構築サービスなどを提供するFIXERは、話題の生成AI「チャットGPT」を使った行政サービスの実証実験で、三重県伊賀市と連携すると発表しました。これが成功すれば他の自治体へもサービスを展開できそうです(前出・岡山氏)

上昇相場の恩恵を受けたいならば、日本株を買うのが手取り早い。上表も銘柄選別の参考にしてほしい。ただし、米国株が暴落するなど、市場の異変があれば、すぐに手放す構えも忘れないようにしたい。

株価急上昇を見抜いていたプロたちがいま頭のなかで考えていること

1兆円、株価3万円超えが意識されるフェーズかと思えます。高値圏なのでチャートが崩れるリスクはありますが、日々値動きを注視しつつ、トレードしています」

来年から始まる新NISAを見越して、高配当銘柄をいまから仕込んでおいたほうがいいとアドバイスするのは、前出の藤原氏だ。NISAだと配当に税金がかからないので、高配当銘柄が人気になる可能性が高い。

「配当利回りがよく、いざやってくる金利上昇が運用面で追い風になる保険業界などは狙い目です。なかでも東京海上ホールディングスは業績面でも安心で、利回りは4%近くあるうえ、増配の期待もある。

個人的には最近、石油元売り大手のENEOSホールディングスを買いました。脱炭素が進んでいます。脱炭素が進んでいくと、石油は必要とされるため、同社の業績は安定しています。配当利回りも約4.5%と高く、最低購入価格も5万円足らずと買いやすい」

他にも藤原氏はこの春にリース会社大手の三菱HCキャピタルの株も購入した。同社は25期連続

の増配を発表しており、配当利回りは約4.5%となっている。「過去の成功体験でいうと、私が一番儲けたのはタマホームです。もともとQUOカード2000円分(3年以上保有の場合)という株主優待目当

松井証券シニアマーケットアナリストの窪田朋一郎氏は、世界トップクラスの半導体メーカー、台湾のTSMCが熊本に新工場を建設していることに着目した。「年内に工場は完成し、

てで、17年に6000円程度で買ったのですが、その後、業績が拡大して、いまでは3000円台となっています。こうした株を買うのは難しいことですが、運良く巡り合えば一生の資産形成に役立ちます(藤原氏)

来年12月から生産を開始する予定です。熊本では10年で4兆3000億円もの経済波及効果があるとの試算もあるほど。熊本地域の経済は相当潤うでしょう。そこで、地元の後援銀行を傘下に持つ

九州フィナンシャルグループや九州地盤の総合物流企業、ヤマエグループホールディングスは投資先として面白いのではないかと。また、TSMC熊本工場の建設を受注した鹿島建設は、他にも半導体工場の設計施工を受注しており注目です」

バブル期に民営化され、空前の株ブームを引き起こしたNTT(日本電信電話)を推奨するのは、前出の太木氏だ。「6月30日に同社の株は25分割され、1万6000円前後で購入できるようなになります。お小遣い程度の金額で買えるわ

蒸し暑い夏、ドキドキしていませんか？



夏の暑さは、体温上昇や脱水傾向で全身の各臓器に負担がかかります。血液循環の要である心臓にも負担がかかります。その結果、ドキドキしたり息が切れたり…。そんな時こそ救心。救心は全身の血流を改善し、どうき、息切れ、頭がボーッとした時の気づけに優れた効果を発揮します。



おかげさまで110周年
110th ANNIVERSARY
KYUSHIN

皆様の健康と真摯に向き合い続けて110年。これからも創業理念の「救病済生」と共に、QOL(クオリティオブライフ)の維持・向上に努めてまいります。

救心製薬株式会社
〒166-8533 東京都杉並区和田1-21-7